

平成28年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程

【2月募集】入学試験問題

(1 / 4)

講座	日本・アジア言語文化論
2 専門科目	日本語試験

次の文章は陣内正敬『日本語の現在』という文章の一部である
(設問の都合上、省略した部分がある)。よく読んで、後の問に
答えなさい。

なお解答は解答用紙に書きなさい。その際、どの問題に答えた
のか、採点者にはつきりとわかるようにして書きなさい。解答は
縦書きでも横書きでも構いません。

陣内正敬『日本語の現在』(16〜20ページ アルク新書)に
よる

問一 傍線部のカタカナ部分①「ハヤ(り)」、②「マサツ」、③「セマ(る)」。④「キョウヨウ」、⑤「ユズ(らない)」、⑥「ヒロウ」、⑦「トウトツ」、⑧「ダトウ」、⑨「キョウウチョウ」、⑩「フンイキ」を漢字に直しなさい。

問二 二重波線部(ア)「愛くるしい」、(イ)「押し付けがましい」、(ウ)「面食らい」、(エ)「回路を遮断」、(オ)「あわよくば」、(カ)「相づちを手に入れよう」、(キ)「ずうずうしさ」、(ク)「ひと昔前」、(ケ)「反感を買った」、(コ)「あれやこれや」、(サ)「くだけた表現」はそれぞれどういう意味か、分かりやすく説明しなさい。

問三 X の箇所にはもともと「若者主流」という題目の三〇〇字程度の文章があった。その文章は後掲「「じゃないですか」の年代別使用率」の表についての解釈である。この部分にどのようなことが書かれていると考えられるか、書きなさい。

問四 省略された部分も含めて「「じゃないですか」について、筆者の意見をまとめなさい。

(以上)